

がん一人で悩まないで

戸田中央 総合病院 支援センター利用呼びかけ

戸田市本町の戸田中央総合病院で6日、市民公開講座が行われ、同院副院長の堀部俊哉医師と小泉純子がん看護専門看護師が「がんといわれたらひとりで悩みを抱え込まないで」と題し講演した。不安の解消などが目的のがん相談支援センターを紹介したほか、気持ちを整理するため「まずは自分の言葉で話して」と語った。

(新井護)

堀部医師は質の高いがん医に挙げ、「がん診療のうち、一療を提供する 国が指定する 一番大切なのは病状の説明」と「がん診療連携拠点病院」がする一方、告知については「今全国に461、県内には同院は普通の病気とされるが、いなど14病院あることを紹介し、機能や体制を説明。自身か、受け止められているかはの専門である消化器内科を例分らない」と述べ、限られた

時間で、患者に診断、治療方針を伝える難しさを指摘した。

そうした中でがん診療連携拠点病院などに設置された「がん相談支援センター」の利用を呼びかけ、不安や心配事を解消してほしいとした。

続いて登壇した小泉看護師

は冒頭で、がん告知で衝撃を受けることがあっても「あなたが一人ではないことを知ってほしい」と強調。「大きな衝撃を受けながらも、あなたが生きていること、そのことこそがかけがえのないこと」とし、つらい場合には心療内科などの受診をためらわないことや、担当医の説明を家族や信頼する人と一緒に聞き安心感を得てほしいとした。

また「情報の力は納得する力の源」とし、納得できる治療を選ぶため正確な情報を得る重要性も指摘。治療は長期

戦とし、周囲にがんであることを伝える方法に「正解はない」とことや、就労世代の患者にとっては「いつもの自分でいられることが生きる糧になる」とことについても述べた。

最後に情報伝達や相互理解、不安や緊張などの感情を吐き出し、考えや気持ちを整理するため「まず、自分の言葉で話してみよう」と呼びかけ。「何のために治療を受けるのかを見つけれられるよう、私たち医療者や相談員がサポートしたい」と力を込めた。



「がんを一人で抱え込まないで」と呼びかけた戸田中央総合病院副院長の堀部俊哉医師(右)と小泉純子がん看護専門看護師—6日午後、戸田市本町の戸田中央総合病院